

しゅんの女ひと

124



小学5年生の全国大会で優勝し、表彰台に立つ大塚さん



中学3年生、手術を乗り越え再び氷上に(+印)



つくし幼稚園の子ども達と(右は春山明美教頭)

愛情の全てを子ども達と分ち合いたい！

分ち合いたい！

昼は幼稚園、夜は十勝オーバルで可愛い子ども達と、明るい笑顔で接する大塚真菜さん。発散する汗が子ども達に伝わりみんな元気ハツラツ。「大塚さんのエネルギーの源はどこから…」と問いたくて、十勝オーバルに出向きました。



ボランティアでユニファースケートクラブのコーチを務めるつくし幼稚園教諭

大塚 真菜さん(23)

連絡先

つくし幼稚園

TEL&FAX 0155-48-3663

ユニファースケートクラブ

TEL 090-3117-1547 (小川さん)へ

マイナスをプラスに置き変えて

練習前の僅かな時間に実践指導のコンセプトを伺うと、「技術よりも挨拶や返事。友だちと仲良くすることなどを大切にしています」。「私が今までの人生で貰った愛情の全てを、幼稚園やユニファースケートの子とも達と分ち合いたい！」と、明るい声で返ってきました。

3歳の頃から覚え始めたスケート。市内の緑丘小5年生の冬には、全国大会で優勝し、オリンピック出場の大きな夢を見た大塚さんでしたが、小6の夏休みに先天性第五腰椎すべり症を発病、北大病院に入院手術。小さな胸で「もう駄目…」と挫折感を味わいました。しかし、帯広五中〜三条高時代も周囲から励まされ、諦めることなく滑り続け、その甲斐あって中3では、全国大会出場の夢を果たしました。恥じず屈せずマイナスをプラスに置き変え「スケートのお蔭で、信頼できる友だちや先生方に出会い支えて頂いた日々。自分が貰ったこの宝物を子ども達に伝えたい」と幼稚園教諭を目指しました。

「顔晴ること」を肝に銘じて…



元気なユニファースケートの子とも達と十勝オーバルで(左はコーチの橋本智子さん)

その後、札幌の文教短大幼児保育学科に進学、卒業後は縁あって市内のつくし幼稚園(天野和幸園長)に就職した大塚さん。園長さんの言葉通り、「子ども達には、声を掛けるだけではなく、必ず先にやって見せて、子どもの体に触れながら接していきます」ときっぱり。趣味は、音楽好きな父とピアノ講師の母の影響で、子どもの頃からクラシックと70年代の洋楽レコードを聴いて育ったこともあって、「音楽に関しては、ちょっと詳しいですよ!」と自信あり気にひとこと。

さて、座右の銘は「顔晴ること」と「感謝の気持ちを忘れないこと」のふたつ。これはスケートの恩師川原正行さん(帯広市職員、元オリンピック選手)に教えて頂いたもので、現在の大塚さんの教育実践の糧となっています。十勝オーバルの鏡のような氷上に、純白のジャケット姿の大塚さんが、ほんのり映し出されていました。

(取材・文/成瀬 登 撮影・菅原正嗣)